

【とらやしや女錢借用状】

かり申御ようとうの事(借) (用) (途)

合式拾貫文者

ちけん(地券)のもん(文書)しよ拾まい(枚)、
たうさう(譲状)のゆつりしやう(一)まい、

右、件の御ようとうハ、まい(毎)月百文別ニ四文

つゝ(利分)のりふん(加)をくわゑて、ミやうねん(明年)の二月中ニ

もと(元子)こともにかゑし(返)申候へく候、しち物(質)にハ

五てう(条)のはう(坊門)もん(室)むろまち(町)から(烏丸)すまるのあ

わい、きた(北)のつら二はんめのやち(屋地)、口三丈

一尺、おく(奥)ゑ(十丈)ハ、とらやしや女ちう(重)

たいさう(代相)てんのわたくし(私領)りやうなり、しかる

をしち物ニ入(置)おき申ところしちなり(実)、ちけん(地券)

ならひニゆつりしやうをあいそへてまいらせ候、

もしこの御ようとうなんしう(難渋)のときハこのち

をおさ(押)ゑられ申候ハんに、まん(全)たく(異儀)一き

申候ましく候、よん(仍)てかり状(借)如件、

応安五年二月八日(一三七二)

うりぬし(売主)とらやしや女(花押)